

第2回 「ユニセフ切手きってボランティア」 11月21日(土) @埼玉県ユニセフ協会



前回の成果

左の写真は前回、1回目の時切った分です。個人ごとに袋に保管されています。活動の成果が目でもわかります。そして、今回は2回目の参加でしたが、ユニセフのスタッフを除くと、オール陽春の生徒でした！

ユニセフボランティアカードをもらいました



このボランティアは初めに、ミニ学習会があります。ミニ、ですが、とても深い、考えさせられる時間です。DVDを2本見ました。一つ目は「13歳のアイシャの1日」6時半に起床して、ラクダを連れて水くみに行くエチオピアの少女アイシャさんの様子を時間と共に追った映像でしたが、灼熱の砂漠を1時間、2時間……と歩き続け、やっと水場に着いたのは12時40分。往復8時間かけて毎日家族のために水を汲んでいるのです。しかし、その水は濁った泥水です。家族みんなで使うわずか5リットルの水をタンクに入れ、顔を洗い、スカーフを洗濯したら、すぐに家路につきます。4時間後家に着き、家族でこの日初めての食事をし汲んできた水でお茶を入れて飲みます。その後、学校へ通っている弟から勉強を教わります。そして、夜9時半に就寝、1日が終わり、また明日同じ1日が始まります。

世界中で女の子や女性が水くみに費やす1日当たりの時間の総計2億時間

Water is Life. Water is Education. Water is Hope.

2本目は、「片足を失った少女」シリアの紛争で爆撃を受け、片足を失った少女サジャさん。国内避難民となり、アレッポに来て3年がたちます。一緒にいた友達は皆爆撃で亡くなってしまいましたが、笑顔を絶やさず、「学校までが遠いので、通学は大変。でも、学校が大好きだから止めることはできない。学校が好きじゃない人なんていないでしょ。」と言います。一番大切なものは足。体操の選手だったから将来は体操



のコーチになりたい。早く昔のシリアに戻ってほしい。外に出かけてもちゃんと無事に帰ってこられる、そう思える日が来てほしい。

シリアでは学齢期の子ども540万人中、210万人の子どもが学校へ通っていません。重い内容の映像でしたが、強い意志を秘めたまなざし、たくましく、笑顔で生きる少女の姿が印象的でした。

続いて、メイン活動の切手切り。参加者の一人が手作りの5ミリ幅のミニ定規をもってきてくれたので、前回よりも作業効率がアップしました。

<参加者の感想>

・今回も大変勉強になりました。上映されたエチオピアで水をくむ少女や戦争で一本の足を失いながらも一生懸命に生きる彼女たちの映像がなかなか目から消えません。特に印象に残ったのは、水をくむエチオピアの少女、砂漠を徒歩8時間もかけて水を汲む！汲んだ水も恐ろしいほど茶色い！その水を飲む！病気になるか心配になりました。また、毎日8時間をひたすら炎天下を歩く生活、彼女の一生の中の大事な8時間…やりたいことに使えない8時間…人生の中で一番楽しい年ごろの8時間と考えると胸が痛みました。欠かせない、生きるための8時間「水」ですが、今のご時世では技術で解決できるのではないかと考えました。確かに、砂漠で水を掘り出すのはそう簡単ではない、おそらく最先端技術を必要とする。



また、高度な技術を用いて改善するにはやはり大きな経済的負担がある。ここで UNICEF や WHO の重要性を理解し始めた気がしました。また、「切手きってボランティア」活動では、参加者の皆さんのお話を小耳にはさみながら楽しい作業時間を過ごさせていただきました。

・今回は「ユニセフ」という名を知りました。そして、私の人生の初めてのボランティアも遂行できました。ボランティアをやってみたくて以前からも思いつつ、やはり何かきっかけがないとなかなか始まらないと痛感しているところ、先生から誘っていただき、良いスタートになりました。今後は埼玉県ユニセフメンバーの一員として活動に参加していきたいと思います。

・「13歳のアイシャの1日」で、アイシャは水を家族のために1日ばかりで川までラクダと行って帰ってくるのです。学校へ行って学びたいのに本当に気の毒です。飲み水も自分の着ていたスカーフを洗った水を飲み水として利用するなんて、ふつう飲めないのにそれを使用して料理をすると言っていました。だけど少しずつ改良して井戸を使ったりして水を飲め得るようにできるとよいと思いました。「片足を失った少女」は、まずあの笑顔が本当に良いなと思い、心に残りました。これからいろいろな可能性のある子どもたちのため、戦争のない社会になっていかなくてもいいと思います。

・前回のボランティアで我々が切った切手の収益が32人分の子供たちの失明予防のビタミン剤になると聞かされ、大変うれしく思った。ボランティアとは体力と時間が必要だと思っていたが、身近で参加できるこのようなボランティアもあることがわかり、一人で勇気がなくてもみなといっしょなら楽しくできると改めて実感した。

・DVD 視聴から・・・今私たちの生活ではちょっと考えられないことですが、世界のたくさんの子供たちが水くみに追われて学校へも行けないことを知り、悲しい気持ちになりました。改めて、ボランティアに参加して本当に良かったと思いました。